

ドイツのエネルギー事情

2012年10月22日 瀧川ゼミ

文責 楓 文菜、遊佐 真琴

・ドイツの基礎知識

(1) ドイツとは

- ・ヨーロッパに位置する連邦共和制国家。世界の先進8カ国の一つで、EUの中核国。
- ・首都：ベルリン
- ・面積：約35万7千平方キロメートル
- ・人口：約8175万人

(2) ドイツの政治

- ・連邦制の採用
- ・ドイツキリスト教民主同盟とドイツ社会民主党の二大政党。
近年、自由民主党や、脱原発を推進する同盟 90/緑の党も議席をのばしている。

(3) 特徴

- ・エコ意識の高い国民
- ・ビール

・ドイツの「脱原発」政策とエネルギー事情

(1) 「脱原発」とは

「脱原発」とは「原発に頼らないエネルギー供給を目指すこと」

2011年6月30日に原子力法の改正案を可決

遅くとも2022年12月31日までに、原子力発電所を完全に廃止することを決定

(2) なぜ「脱原発」を目指すのか、脱原発政策とは

a) 「脱原発」への経緯

2002年 原子力法改正...シュレーダー政権率いる社会民主党と緑の党の連立政権が、
2022年までに脱原発することを決定

2010年 原子力法改正 ...メルケル首相が、産業界の声を受けて、原発の運用年数を平均12年延長 = 脱原発から遠のく？

2011年3月 福島第一原発事故が発生

2011年7月 原子力法改正 ...メルケル首相が2002年の決定に戻す
(福島事故後、運転を休止した8基を廃止、残りの9基は2022年までに段階的に停止)

b) 「脱原発」と再生可能エネルギー法

- ・「再生可能エネルギー法」...地球温暖化防止、環境保全及び持続可能な発展のために、2000年に制定。改正を繰り返し、2011年にも全面改正。電力供給に占める再生可能エネルギーの割合の目標などを見直した。
- ・「再生可能エネルギー」とは...風力、太陽光などの自然エネルギー
- ・「再生可能エネルギー固定価格買い取り制度」の導入
再生可能エネルギーの導入促進のため、電力会社の電力買い取りを義務化。これにより、総発電量に占める再生可能エネルギーの割合が、2011年に20%まで達して、原発を初めて上回った。

c)再生可能エネルギーとドイツが抱える問題

未だ化石燃料中心の電源計画

大量導入した北部（発電地）の風力発電から、南部（消費地）への送電線建設

太陽光発電大量導入の経済的負担に対する反発

電気料金の上昇

の主な原因が、再生エネルギー導入（とくに太陽光発電）に伴ったもの
エネルギーコストと供給不安、産業へのダメージ

再生可能エネルギーの大量導入によって、さまざまな問題が発生。

とくに、太陽光発電関連のものが目立つ。

d)太陽光発電に関する問題

- ・普及に伴い、電力会社の買い取り費用が膨れ上がり、電気料金がかなり上昇
 - ・発電量はそれほど多くない
 - ・日によって発電量が違い、供給が不安定
- 再生可能エネルギー法の改正、太陽光発電で生成された電力の買い取り価格は是正、政府による太陽光発電の優遇を廃止

(3)今後のドイツのエネルギー政策

- ・「脱原発」は崩さない
- ・太陽光発電に代わる再生可能エネルギーの普及
- ・再生エネルギーを組み合わせる発電量をコントロールするシステム
- ・洋上風力発電

参考文献

- 1、熊谷 徹著 『脱原発を決めたドイツの挑戦 再生可能エネルギー大国への道』角川新書、P240,2012年
- 2、特集：再生エネルギー法 渡邊 斉志 『ドイツの再生エネルギー』
<http://www.ndl.go.jp/jp/data/publication/legis/225/022506.pdf>